

# 「日本健康開発雑誌」投稿原稿作成要領

## 投稿規程 第6章「原稿の投稿」より

(原稿の投稿)

第37条 原稿は、編集委員会宛 ([jjhr@jph-ri.or.jp](mailto:jjhr@jph-ri.or.jp)) に件名を【投稿原稿】としてEメールで提出すること。なお、原稿は、投稿原稿書式を用いて刷り上がりの体裁で投稿すること(原則としてWORDファイル)。図表については、EXCELファイルやJPEGファイルでの作成も許可するが、WORDファイルに貼り付けて形で提出すること。

## 投稿規程 第7章「原稿の準備」より

(スタイル)

第38条 原稿は、Microsoft Word で作成すること。書式は1ページ40行、上下余白20mm、左右余白18mmとする。タイトル・要約(抄録)は段組みなしとするが、本文は2段組み、間隔3字とする。タイトルは1ページ目最上段より1行空けて記載し、著者名・所属とともに中央揃えとする。

2 フォントは次のとおりとする。

タイトル	MSP ゴシック	14ポイント	太字
英文タイトル	Century	10.5ポイント	
著者名・所属	MSP ゴシック	10.5ポイント	太字 ※著者名にふりがな
連絡先	MSP ゴシック	9ポイント	
Keywords	MSP 明朝	10.5ポイント	
見出し	MSP ゴシック	10.5ポイント	
本文・引用文献	MSP 明朝	10.5ポイント	※英数字は Century
図表のタイトル	MSP ゴシック	10.5ポイント	
英文抄録	Century	10.5ポイント	

(英語の水準)

第39条 英文原稿を提出する際は、原稿は分かりやすく、文法的に正しい英語で書くこと。英語を母国語としない著者は、投稿前にネイティブスピーカーによるチェックを受けるか、英文校正サービスを利用することを強く推奨する。英文校正サービスを利用した際は英文校正サービス会社の証明書を添付すること。原稿の内容理解に支障をきたすレベルの英語で記述されている場合は、査読を経ずに却下されることがある。

(カバーレター)

第40条 カバーレターには、原稿のタイトルと責任著者の連絡先を記載する必要がある。著者は、研究の目的と成果、およびその研究がどのように、またなぜ掲載にふさわしいのかを要約する必要がある。カバーレターには、関連する同意や倫理的承認などの詳細を記載しなければならない。さらに、APC 免除の申請やその他の倫理的宣言など、その他の関連情報についても、投稿時にカバーレターに記載する必要がある。

(フォーマット)

第41条 構成は「背景・目的」、「対象・方法」、「結果」、「考察」、「結論」、「文献」で記述されている必要がある。見出しの階層は(章立て)は、第1階層から第5階層までとする。

2 第1階層は論文タイトルとし、本文見出しは以下の第2階層からの4つの階層から構成する。

3 「I. 背景・目的」「II. 方法」等の第2階層と第2階層の間は1行空けるが、第3階層以降については、行間は空けない。

第2階層	I. II. III.	太字	左端揃え	例) <b>II. 方法</b> 2. 測定方法 (1)入浴方法 ①入浴頻度
第3階層	1. 2. 3.	標準	左端揃え	
第4階層	(1)(2)(3)	標準	左端揃え	
第5階層	① ② ③	標準	上位より1字下げる	

4 原稿の最初のページには、以下の項目を記載する。タイトル、著者のフルネーム、所属、キーワード、ランニングタイトル(欄外表題)、責任著者の名前および連絡先(電話番号、ファックス番号、メールアドレスを含む)。

(1) タイトル

論文の内容を簡潔かつ明確に示す必要があり、検索エンジン最適化のために重要である。同じ著者による一連の論文であっても、共通のメインタイトル(表題)と番号付きのサブタイトル(副題)を使用したタイトルを設定してはならない。タイトルには、関連分野で一般的に使用されているものを除き、略語を使用しない。

(2) 著者

著者全員のフルネームを記入すること。

(3) 所属機関

所属機関の名称(研究室、学部、研究所/医療機関/大学等)を記入する。異なる機関に所属している著者がいる場合は、それぞれの住所を上付記号の数字を用いて示す。所属先の変更等により著者の所属機関について新しい住所を記載する必要がある場合は、脚注に記載し、上付き記号(\*や\*\*など)で示す。責任著者については連絡先住所を記載する。

(4) キーワード

最大で5個のキーワードを記載する。

(5) 脚注

脚注や略語がある場合は、[記載場所：別紙（原稿の2ページ目）、等]に記述すること。

(6) 略語

略語は、本文中の初出時（タイトルと抄録を除く）に、省略していない形の記載の後に括弧書きを行い定義する。

(7) 単位

国際単位系（SI）あるいはSI由来の単位を使用すること。SI単位の詳細については、Bureau International des Poids et Mesures (BIPM) のウェブサイトを参照すること。

(8) 年表記

年の表記は原則西暦を用いること。元号表記は、行政資料の名称などやむを得ない場合のみとする。

(9) 句読点

日本語（文献部分を除く）の句読点は「、」「。」を用いること。

(10) 抄録

要旨は、構造化抄録とし、【背景・目的】、【方法】、【結果】、【結論】とする。本文が和文の場合、英文要旨は任意とする。要旨は、全ての原稿種別において600字以内で記述し（英文要旨の場合は250語以内）、特定の略語の使用は避けること。別の論文に言及する必要がある場合は、タイトルを省略して記載すること。

（例：Maekawa, S., Endo, S., and Sakai, H. (2015). *Sci. Journal.*, 14: 10–15).

(11) 背景・目的

序論では、論文の広範なレビューは含めず、読者が調査の目的や関連分野の他の研究との関係を理解できるように、十分な背景情報を提供する。

(12) 対象・方法

方法の記述は簡潔であることが望ましいが、実験の追試が可能な程度の詳細情報が記載されていなければならない。また、使用した化学物質、動物、微生物の株や装置についてはその入手元を記載し、括弧内にその所在地（都市、国）を記載すること。実験に危険物や危険な手順が用いられており、その取り扱いに関する注意事項が広く認知されていない場合は、厳守すべき詳細事項を記載すること。

(13) 結果

実験の結果を記載する。読者の理解や研究の評価に役立つ場合は、「結果」と「結言/考察」のセクションを統合してもよい。実験結果の説明には表や図（写真を含む）を用いてもよい（下記表・図の項目参照）。表や図で示されたデータの説明は過剰にならないようにすること。

#### (14) 考察

考察は簡潔にまとめ、結果の解釈を扱うものとする。新しいモデルや仮説は、実験で得られた結果から示唆される場合に限り、本セクションで提示できる。実験結果の記述を繰り返す内容であってはならない。

#### (15) 結論

主張したい内容（研究で何がわかって何がほしいか）を端的にまとめること。

#### (16) 謝辞

研究に関する全ての助成元を完結にまとめて記載する。著者全員について利益相反の有無を記載する。

#### (17) 参考文献

- a) 本文中の引用箇所には片括弧を付して、引用順に 1) 1,3,5) 1-3) のように記入する。
- b) 本文の最後に「文献」として引用した文献の書誌情報を 1) 2…と一覧表示する。著者名が3名以上の場合は、4名以降を「他.」または「et al.」と略す。
- c) 日本語の場合「,」「.」「;」「:」は全角、「-」「/」は半角とする。英語の場合、「,」「.」「;」「:」「-」「/」はすべて半角とする。ただし英語の場合「,」「.」「;」「:」のあとは半角でスペースを空ける。インターネットのURL記載は半角を用いる。

#### 【引用文献記載例】

文献の種類	必要な書誌情報と記載順序・記載例
雑誌	著者名. 表題. 雑誌名 発行年(西暦); 巻: 頁-頁. 例: 1) 財団一郎, 健康花子, 日本次郎, 他. ○○○○○のXXXに関する研究. 日本健康開発雑誌 2017; 38: 13-20. 2) Hayasaka S, Shibata Y, Goto Y, et al. Bathing in a bathtub and health status: A cross-sectional study. Complement Ther Clin Pract 2010; 16(4): 219-221.
書籍	著者名. 表題. 編者名. 書名. 発行所所在地: 発行所. 発行年(西暦); 頁-頁 例: 3) 早坂信哉, 尾島俊之. 割合の差. 中村好一編. 医療系のためのやさしい統計学入門. 東京: 診断と治療社. 2010; 50-57.
インターネットサイト	他に適切な資料が得られない場合のみ文献として使用しても良い。その場合は、サイト名とアドレスを簡潔かつ明確に記載するとともにアクセスした年月日も付記すること。 例: 4) 厚生労働省. 平成26年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況について. 2016. <a href="http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12412401-Hokenkyoku-Soumuka/0000129999.pdf">http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12412401-Hokenkyoku-Soumuka/0000129999.pdf</a> (2016年12月9日アクセス可能)

本誌では、本文中および参考文献セクションにおいて、公開されている研究データの引用を明記することを推奨している。データの引用にあたっては、永続的な識別子 (DOI など) を含めて記載しなければならない。

(18) 表

表にはアラビア数字を用いて通し番号をつける (表 1、表 2 など)。貼り付けた各表の上にはタイトルを付ける。説明資料や脚注は表の下に配置し、a) や b) のように上付き文字で指定する。測定単位は、列の上部に数値を含めて記載する。表に示したデータを得るために使用した実験条件の詳細な説明は関連する他のセクションに含め、表の説明文中には記載しない。

(19) 図

「図」には、線画、写真、チャート、グラフなどが含まれる。印刷に耐えうる高解像度の画像を使用すること。写真の倍率は、凡例に示すか、写真に写っている目盛で示すことが望ましい。図にはアラビア数字で通し番号をつける (図 1、図 2 など)。それぞれの図の下に短いタイトルをつける。図の説明は別のシートにまとめ、図を理解するにあたり十分な実験内容を記載する。ただし、「方法」「結果」などの他のセクションで記載されている内容との重複は避けること。

(20) 補足資料 (電子付録)

補足資料は、読者が原稿を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。オンラインのみでの論文公開を希望する場合には、補足資料の提出を推奨する。補足資料は、データ、テキスト、などで構成され、受理された原稿と共にオンラインで公開される。

補足資料も査読の対象となるため、著者は原稿提出の際には最終版を提出しなければならない。原稿受理後は、著者は補足資料に変更を加えることはできない。

以 上